

平成30年度第2回御宿町生涯活躍のまち推進協議会 会議録

開会

1 委員長挨拶

2 町長挨拶

2 議題

1) 平成30年度の実施事業について

2) 平成31年度における取り組みについて

関連があるため、併せて協議を行った。

保健福祉課長 説明

産業観光課長 説明

教育課長 説明

企画財政課長 説明

副委員長 それぞれの担当課長からご説明いただき、前回の平成30年7月の会議で活動計画について予算を含めて私たちに説明していただいたが、予算についてはどういう執行状況だったのかというのを知りたい。それから、具体的には各課で、保健福祉は実谷の寄茶場に私も参加したが、とても楽しかった。多世代交流の場としてもまた、地域の方がたくさん参加していて、回を追うごとに楽しかった。その後いきいき元気教室という保健福祉課の事業の参加者が増えたが、町の事業に相乗効果が出ていると思います。こういう拠点作りの件は、実谷区では進んでいて素晴らしいと思うが、他地区の、町中とか御宿台における広がりですが、御宿台では「茶話所(さわどころ)」というグループ、町中では「支え合いネット」というグループが既に活動しています。そういう活動グループを活用する計画はあるのかをお聞きしたい。

2番目に、企画財政課の御宿町情報発信ウェブサイト運営協議会が立ち上がり、ワーキンググループの会議の第1回目があり、私も参加したが、情報発信ウェブサイト運営協議会の中身について、役割とか構成メンバーを教えてください。実際に動かす人たちは、とても前向きですが、協議会との関係がもう少し見えてこないです。

産業観光課のオリーブですが、これもどんどん広がってきて楽しみだが、種類が難しいのかなと思うのと、実際にたくさん作る方達と私達一般住民が3本植えるのと、C CRCとの絡みでどういう計画があるのか教えてください。

企画財政課長が言ったように、庁内横断的な取組み、動きをしていくということですが、この前の講演会で「観光地づくり」ではなくて「観光地域づくり」と言っていた清水先生のお話は、本当にそうだなと思って聞いていたが、やはり御宿町に住んでいる住民が、地域の魅力を発信することが、とても大切だと思うんです。それで今集まっているワーキンググループの人達は、とても情熱にあふれる人達なので、ぜひ企画財政課のほうでも後押ししていただきたいと思います。

それからもう一つぜひこの会議で言いたいなと思っていたのは、横山副町長にCC RC事業の推進役として、国への申請から、そして交付金決定後は全体の計画をまとめて、具体的なこういう形を作ってこられたことに、大変感謝しています。ありがとうございました。

保福課長 予算の執行状況ですが、生活支援・支え合いサービス事業は、実際アンケート調査やニーズ調査を行うことで、予算が計上されていたが、ニーズ調査については、

実施されている既存のアンケートや、昨年度ワークショップを実施しているので、そういったものを参考にすることで、具体的なアンケート調査は実施しませんでした。また、講演会についても、まずは地域住民の方に、楽しさをわかってもらおうという形から進めることで、大きな講演会は実施せず、多世代交流事業に力を入れた関係で、生活支援と支え合いサービス事業についてはほとんど予算執行がない状況です。それから多世代交流の仕組みづくり事業は、三育学院大学と協働で実施し、委託料で約80万円位を執行しており、今年度新たな拠点として、空き店舗の借上げを1月からして、今後改修作業を始めますので、こちらのほうは、概ね執行ができています。

産観課長 予算執行状況ですが、オリーブ栽培については、視察旅費並びに講師謝金について交付金の採択を受けています。その他の事業費として、残念ながら国の交付金は受けてはいませんが、予算としては苗木の購入としての300万円を当初予算に計上しています。予算の執行状況としては、二ノ宮町への視察の際に利用したバスの借上料と、これまで三度に渡る研修会、3月に予定している土作りの研修会としての講師謝金については、すべて執行が完了する予定です。当初予定していたよりも研修会の数を増やしましたので、講師謝金などを合わせた予算の中で執行予定です。また、苗木の購入代については、交付金の採択を受けていませんが、賑わいづくりであったり、交流の場づくりであったり、それから生き甲斐づくりであったりということで、徐々に関心が増えてきていますので、きっかけづくりとして苗木を500本町で購入をさせていただきます。それを若干町が購入したよりも、少しお求めやすい価格で皆さんに販売促進をして、オリーブ栽培に取り組んでいただく仕掛けを現在進めているところです。この予算の執行額が125万円、すべて販売した段階で、100万円程度の歳入になりますが、公共施設や人の交流拠点の場にもオリーブの苗木等を植えて、活動の中でご利用いただく苗木も想定していますので、すべての苗木を販売する予定ではないです。ご質問にありました、商売でやる方と皆さんに取り組むのは、当然に違うので、あくまでもCCRC構想、地域再生計画の枠組みにおいても地域の方の賑わい作り、拠点作りまた人づくりというところに着眼を置いているので、寄茶場のような会がどんどん広がりを見せることを目的としています。そうしたことから土作りについても、例えば植木鉢等で栽培する際の土はどういうのがいいのかということを中心に、今後の土作りについてもご講演をする予定になっています。また業として大規模に行う方については、この苗木の枠組みとは別で、こうした取り組みが進んだ段階において、農業振興として考えていければと考えています。

教育課長 特色ある教育プログラム事業の予算の執行状況ですが、当初予算配分としまして、300万円の配分がされている事業です。そのうち事業実施にかかる市進学院に対する委託費として、小中学校あわせまして216万円、小学校の英語事業でタブレットを使う授業を行っていて、公民館のwi-fi環境が、30人使うと中々厳しいところがあり、wi-fiの環境整備事業の費用として約24万円、トータル240万円の事業費を執行しました。また、参加者からテキスト代として1人千円いただいており、歳入としては、49名ということで4万9千円となっています。

企財課長 当初交付金事業全体としては2,390万円予定をしていましたが、交流拠点の確保などができない部分もあり、1月末ベースで1,859万円、約530万円が執行しませんでした。また、企画財政課では、ウェブサイトやお試し住居、体験ツアーについても着手はしておりますので、ほぼ予定通り執行はできております。

ウェブサイトの状況についてのご質問ですが、メンバーの構成から言うと、御宿町商工会、御宿町観光協会、観光協会の中の宿泊委員会、飲食店組合、御宿岩和田漁業協同組合、それと町が入りまして、総勢10人で運営協議会を構成しております。この構成団体につきましては、公的団体である漁業組合や商工会などは現在ホームページを持って運営しているということで、そういうところに委員の推薦をお願いして、決定しています。所管事務については、ウェブサイトの構築及び運営、また協議会の予算決算、ウェブサイトの構築・運営に係わる関係機関との連絡調整が主な所管事務となっています。それとワーキンググループについては、委員が参加されたワーキンググループというのは、運営協議会の事業を委託する際、委託をした先のスタッフとして、いろいろご意見などを聴取するために集まった組織であり、協議会の直属のワーキンググループという位置づけにはなっていません。運営協議会の当初、細かなところはワーキンググループを組織するという合意をいただいておりますが、実際のところ運営協議会でこういうメンバーでワーキンググループを組織しようといったことは決定していませんので、混同しがちで、運営協議会のワーキンググループと委託先のスタッフとして活動するワーキンググループと、ややこしいんですが、参加されたのは委託業者のほうのワーキンググループということでご理解いただきたいと思います。

保福課長 さきほど区だけでなく、様々なグループとの連携を考えているかというご質問、ご提案をいただいたところですが、様々な団体、民間も大学もいろいろ今やっていますが、町の地域グループといったところと連携をすることが一番の根幹であると思います。現在区という形でいろいろお願いしているところですが、今年度新たな拠点として空き店舗の借上げを行っています。その改修等を行い、拠点にして、誰でも気軽に集まれる環境づくりをしていきながら、産業も含めた地域グループが連携して、また自主的に活動できるような環境づくりを徐々に整えていければと考えていますので、いろいろご協力いただけることがあったらお願いしたいと考えています。

副委員長 御宿町情報発信ウェブサイト運営協議会というのは、構成メンバーが10人の方で、それぞれ町の観光業に携わる方と町ですよ。

企財課長 あとは産業団体として、商工会と漁業協同組合が入っております。

副委員長 そこと委託業者との関係では、町は委託業者と今課長が言ったのは、実際にサイトを作る人達ですね。それは、Aさんのグループですよ。そうすると、運営協議会というのは町の方も入っているので、基本的な方針を決めるとか、そういうことでしょうか。ワーキンググループで集まりを持ったというのは、私の認識ではボランティアで、本当に手を挙げて参加してウェブ作りに自分たちも何か力になることができるのか、やりたいと思う人の集まりなので、今課長が説明したことそのものだと理解しています。ただ、コンテンツがいくつかあって、それは私が担当しますとか、実際に活動したいなという方もいるように思うんですね。そうするとボランティアのワーキンググループは、委託業者であるAさんたちはプロ集団ですので、そことの話合いで実行されていいと認識しているのですか。

企財課長 コンテンツを作り上げる中で、運営協議会というのは、おおまかな運営方針を決めるような組織で、そこに町から421万円お支払し、そこから業者に事業が発注されるわけです。Aさんは委託業者ですが、そこがコンテンツを作る中で、どういう風な作りこみをしていくということで、いろいろご意見を伺っているものと認識しています。当然CCRC計画全体が、町中で取り組もうということですので、そういうコンテンツの作りこみにするので、形が出来上がった中で、いろいろな書き込みですとか取材ですと

か、そういうことをお願いすることが出ると思いますが、まだどなたにお願いするかというのは、運営協議会の中でまだ話し合われていないので、町の皆さんで作り上げるということで、何かしら協力していただけるような仕組みを作っていきたいと考えています。

副委員長 わかりました。7,000人のアバターということで、全町民が参加するウェブ発信になればいいなと思っているので、本当にすごいメンバーだなと実感したんですね。委託するAさんたちのグループと、運営協議会があって、その方たちは基本構想、提案書は町とAさんたちのグループが契約関係なのですよ。運営協議会は契約には……。

企財課長 運営協議会と業者が直接契約をしております。

副委員長 町ではなくて、運営協議会が契約者ですか。

企財課長 町は交付金を協議会にお支払しています。

副委員長 協議会はウェブの予算をもらって、協議会にその予算の執行をまかせている。そうですか。この3月末で第1回はウェブサイトを立て上げるのですよね。初年度に1回はしなきゃいけないので、それに向かって実際に大変な作業が始まっていますが、私たちボランティアは今回全然活動せず、プロの方たちは大変だなと思いつつ見ているんですが、確かに実力のある人達なのでこれはすばらしいウェブサイトができるんじゃないかと期待大なんです。そこで、町と運営協議会とそれからAさんたちの実際に作る人達との関係が、よくわからなくて、実際に作る人達がちょっと動きにくいんじゃないかなというふうに思ったものですから、何か作る時に基本的なものがクリアできていたら、ある程度自由なものがあったらいいんじゃないかなと。それは基本的な考え方はCCR Cに則るとか、町のいろいろな考え方を最初に伝えといて、あと技術的なことは、最終チェックでいいんじゃないかな。ウェブというのは怖いから、確かに1回アップしてしまうと取り返しがつきませんよね。発信することと、確認というのは大変な作業だと思うんですけど、町と運営協議会と実際に作る人達との関係がどうなのかなと思って質問しました。

委員長 言葉の上ではわかるんですけど、実際はボランティアで参加しようとするグループがどのくらいまでお手伝いできるのか。運営協議会においては、さきほど課長から説明があったように各種産業団体等が母体となった中で、プロの人達など苦勞されて立ち上げようというようなことがあると思います。そのような考えの中で、ボランティアでも私たちはこう思って参加できたかなという部分があると思うんです。それは運営協議会の中で町のほうからもこういう人達がいるので意見を聞いて一緒にやってくださいということも発信できるんじゃないかと。そうすると住民が一体となることができると思います。ほかにありますか。

委員 今いろいろ説明いただきありがとうございます。CCRCの予算の範囲内で、全体の各課長からいろいろ努力していただいたことがよくわかります。今聞いていて、これは地方創生全般に渡ったような感じで私は受け止めています。CCRCのコンセプトはもう一つ大きなメインテーマがあり、これが医療であり、介護であり、本当にリタイアした方が御宿に来て、定住されて。だいたい60歳前後でリタイアされるわけですが、10年経ち20年経ち30年経ち、後期高齢者になります。御宿台を例にとりますと、御宿台が開発されてから40年、人が定住されてから30年くらい経っています。そうしますと、現在1,500人の定住者、だいたい650から700世帯の方が住んでいるわけですが、区制がひかれて10年くらいまでは、まだ皆さん元気なんです。今サークル会が44、5くらいあるのではないと思うのですが、御宿台のリタイア組が元気に過ごしているひとつの大

きな要素は、サークル会参加なんです。サークル会にそれぞれ2つか3つ入って、日常のコミュニケーションの場を設けて元気でやっているわけです。ところが、後期高齢者が今どんどん増えてきています。区制がひかれて、私がちょうど御宿台区長の頃が10周年だった。それからあと1年かそこらで10年、ちょうど20年経ちますが、現在後期高齢者がどんどん増えてきています。私も80台の人間ですから。そうしますと、サークル会に参加できない年齢になってきたときに、そういうサークル会の場があっても足が無い、健康上の問題でサークル会に参加できないというような状態が今起きつつあるわけです。ちょうど今あたりがターニングポイントになっていると思います。ここからリタイア組が、万一ケアが必要となっても、住み馴れた地域から転居することなく、継続的な医療、介護のサービスを受けることができる安心・安全な町を目指しましょう。先ほども移住者対策などいろいろありますが、現在いるリタイア組が安心して住める町でなかったら、新しい移住者は来ないと思うんです。御宿という所はどんなところかと。温暖で海があり山があり、素晴らしいところです。しかし、万一ケアが必要になった時というのは、自分の足でそういうところに参加できなくなった人達をどういう風に救っていくのかというのが、私はこのCCRCのメインテーマ、メインコンセプトでないかと思っています。今回いろいろ行政ベースで考えると、与えられた予算の範囲内でやっていくわけですから、今いろいろご報告があったことはこのまま進めて、大事にしていかないとよく理解したうえで、もう一つ、これはかなりハードルが高いです。今日は先生もご出席されていますが、一所懸命先生も在宅介護にご協力いただいております。介護の方も2人お見えになっていますが、リタイアして御宿台という実験台はあるわけです。ほかの新町ですとか須賀にもそのような人達がいらっしゃいますが、御宿台というところは、99%がリタイア組なんです。ここで今問題を抱えているのは、CCRCのコンセプトのメインテーマである本当に高齢者になってきて車の運転免許も返さなきゃいけない。足腰が弱くなってなかなか買い物にもいけない。医者にもかかれない。そういうようなことがここにある。万一ケアが必要になったときは継続的に、ここで安心して住める、最後を御宿町で迎える、そういう体制を整える。これはハードルが高いから時間がかかるのは承知の上です。それともう一つは、国の交付金とかあるいは町の予算とかそういうものでは中々できない。だから今説明があったものは、ほとんど交付金や町の予算の中で動けるものだと思うんです。ただせっかくCCRCで推進協議会を作っているんですから、これは政治ベースになると思うんですが、町長がいらっしゃるが、行政ベースだけではなく、政治的な取り組みをしていかなければいけないんじゃないかと常々思うところです。そういうのも含めてもう一度CCRCのコンセプト、基本構想のメインに戻って、今一所懸命やっているものはこのまま推進して行って、町づくりを活性化していくことですが、もう一つは突っ込んでいかなきゃいけないと思うんですけど、今日町長と副町長いますけれども、意見を伺いたいと思います。

町長

今、各事業について説明があり、大きく分けて5つありましたけど、その中の1つに地域包括ケアシステムの構築と。ここに介護医療が含まれるということですが、30年度初年度として説明させていただいた事業を手がけておりますが、おっしゃっていただきましたハードルが高い部分については、中々進みづらいということが確かにあるかもわかりませんが、やはり医療介護ということにつきましては、地域事情がね、御宿町は高齢化率が一番高いとそういう中でおっしゃられました大変足の面といいますか、出かけるにしろ買い物に行くにしてもどこに行くにしても非常に必要、需要が求められるということがございます。そういう中で、各課長が出席していますので、いろいろな事

業を手がける中でやはり私も委員と同感でございまして、CCRCの基本コンセプトの中の一番太い部分は医療介護だとそういう基本理念を持っております。そういう中で、ぜひいろいろな方々のご協力をいただきながら進めていきたいなと。今発表いただきました皆さん方の事業についても、すごくまちづくり全体から考えまして重要な事業でございまして、同時に医療介護、本当にこの地域といいますか、御宿にとってみると非常に、なにはともあれ厳しい環境にありますので、いろいろな方々のご協力をいただきながら、私も一所懸命努力をさせていただきながら、この事業の目的を全うしていきたいと。よろしくお願ひしたいなと思ひます。

委員

実はCCRCが立ち上がった今から何年前ですか、かなり住民の方々から期待をされているわけですね。だから御宿町で住み続けて、私が今住んでいるところにこのまま住んで、御宿町で最後を迎えたいという期待を持ってこのCCRCを見ているわけですね。ですから、先生も我々の御宿町の在宅のほうへ、訪問医療をしてもらったりしています。サ高住をこちらに導入することも大事なことだと思いますし、今やろうとしていますから推進していただきたいのと同時に、それ以外に在宅医療、在宅看護、在宅介護については、今日は介護専門の方がいらっしゃいますけど、介護については結構町自体も相当な万全のシステムを組んで介護を進めていますけど、医療と看護がどうしても手薄で、これをどう処理していくのか。CCRCのメインコンセプトですから、サ高住の前に打つ手はあるのかなと。これは、そんなに予算かけてやる問題でもないだろうし、政治的な動きでいいのではないかなと。それも中々時間がかかる話だとは思ひますので、ぜひ取り組んでいくべき、進めていってできることはやっていかないとかなと。思うのですが、そういう方向で在宅医療、在宅看護、これを期待している住民が、高齢者がたくさんいるということもご承知いただきたい。そういう方向に進んでいただきたいということをお願いしたいと思ひます。

委員

今年度の目標って決まっているんですね、目標に数値目標はありますよね。その現在の状況と達成見込みというのか、どこまでいくのか、それを教えてください。

企財課長

KPIの目標値を決めていまして、移住者の数が1人、移住相談者の数が10人、交流サロン利用者の数、年間の延べ人数が600人、就業者の数が3年目に始めて2人ということで、その間は0というような目標を掲げておりますが、今のところまだ事業を実施途中で、年度中でございまして、まだしっかりとした数値は把握していません。次年度会議の中でお話していくところですので、今日のところは大変申し訳ありませんが、数字のほうは捉えていません。

委員

在宅医療については、私は医療に従事している者の覚悟次第ではないかと思ひます。従って私を含めて、ある程度のリーダーシップをとらない限り中々進まないのかなと思ひます。こちらにほとんど住むようになっているので、私自身は夜間でも診ようかなと思ひます。ただし私個人がいくらがんばっても私がいなくなるとアウトなので、医療機関同士の連携を深めながら、ある程度御宿町を複数のドクターで診られるようなシステムが構築できないかと思ひます。ただ、私たちがいくらがんばっても介護施設の方々の協力も受けないといけないので、そういうところの連携をもう少し構築できたらなと思ひます。今日いらっしゃるんでよろしくお願ひできればと思ひます。私は、今後の医療に、もちろん行政の関係の方のご指導がなければ成り立ちませんが、私たちの医療に係わる覚悟次第で、かなりのことはできるんじゃないかと。私の後輩が南房総市で在宅医療をやって、彼は非常に熱心です。彼は患者にiPadを持たせて、在宅で寝ている方に、例えば彼が外国に出張している時もiPadで患者を全部診る

んです。そういう医療関係者の覚悟次第でもう少しバラエティのある御宿町の医療が構築できるんじゃないかなというふうに考えているところです。

委員 私共も地元にある介護施設なので、先生のお話を聞いていて、介護施設でありながら私共のほう、看護師とかいるので、夜間先生が動けるというふうになれば、夜間の訪問看護だとか、そういったところに繋がるのかなと思ったんですけど、御宿町にヘルパーの事業所などそういったところがあるので、うまく連携していければいいのかなと思います。今までそういった病院とか介護施設とかでも連携というのが中々うまくとれてなかったのかなというのが、実際思っているところなので、そういったところも今後連携を図っていければよりよいところが出ていくんじゃないかなと感じられました。

委員 先ほど今年度の事業内容と実施状況について詳しくご説明がありまして、かなり進捗しているという気がしました。その中で委員が言ったように、介護のほうの環境が載っていますけれども、来年度事業の要望等には交付金を要望するわけですから、補助金を活用したことによって基礎を固めていかなければいけないと思っています。そういう中で、予定表を見ると、平成32年を目標にしている、この事業の補助金を打ち切ったときに進めていかれるようなことを考えていかなければならないと思ったんです。そういう中では、いろいろ問題点とかこういうことをやらしてもらわなければいけないというような、要望とか出ていると思われるので、そういうことを参考に、これから要望を踏まえて補助金の申請ができるよう踏み込んでいただいて、そして計画に対してスケジュールとPDCAを踏まえて反省点とか、そういうことを協議しあって、計画に対してスムーズな執行ができるように要望していただければと思います。

企財課長 ただいま補助金が終わっても続けられるようにというふうなお話をいただきました。まさにそのとおりでして、この交付金を活用して、いろいろ仕掛けを作りまして、稼げる仕組みづくりを目指していき、交付金が終わったときには自分たちで自立していけるということが目標ですので、そちらの方向に向けて進みたいと思いますので、今後ともよろしく願いいたします。

委員 まず、確認をしたいのですが、KPIという皆様から質問等があったと思いますけれども、多分本会が今年度最後ですか。もう一回予定していますか。

企財課長 今年度これで終わりと思っております。

委員 ということ、交付金事業ですので、地域再生計画を持ってきておられるのですが、年度ごとに評価をして、年度ごとに申請をして採択を受けるとというのが今回の交付金事業のスキームだったと思うんですね。その中で、それは国に対してということでもありますし、各委員からも一年間の事業の結果についてご理解いただいているのかなというふうに思っています。今回の会議の中で、執行部の皆さん、本メンバー含めて町民の皆様、また町外の方々また大学、様々な関係機関のご協力での計画を1年間進めてきたわけですが、そこが全体としてどうあるのかということの報告がなかったと思うんですね。各それぞれが例えば5つのカテゴリーです。その例を報告していただいたんです。もうひとつ方向性とする、先ほど委員の質問の趣旨に沿って進めますというお話は、今事務方からいただいたと思うんですけども、今日の資料の真ん中の部分、地域再生計画の目標、具体的にはどうするのか。ここをわからずに私たちが常日頃頭に入れながら皆さんと一緒に計画を進めていくということは、非常に大事じゃないかなと考えています。ちょっと読ませていただきますと、地域再生計画の目標、町の課題である人口減少、高齢化、そして経済の活性化に対応していくため、地域の自然環境や都心に近い地理的条件、農産物・海産物などを活かしながら、行政と地域住

民をはじめ、大学や高校、企業が協働・連携し、御宿町に暮らす者並びに訪れる者が、年齢や性別、障害の有無などにかかわらず、皆が心豊かに暮らすことができる「生涯活躍のまち」を目指します。具体的にはということで、住民と行政の協働により、①生活支援・支え合いと多世代交流の仕組みづくりや、②地域資源を生かした産業の振興や交流人口の増加、⑤豊かな自然の中で、住まいや理想の暮らしを実現する移住促進を図るほか、④医療機関や福祉・介護事業者と連携して、御宿町を終の棲家とするための継続的ケアを受けることができる体制の整備などにより、地域住民と移住者が安心して暮らせるまちづくり、自立した持続可能なまちづくりを進めます。

この目標、実は地域再生計画では、どういうふうに位置づけられているかといいますと、国に申請をして認可を受けましたが、事業が先導的であると認められる理由に入っています。そのところを理解しながら、特に事務方のほうは理解しながらこの5つのカテゴリーを進めていくんだというところに心を砕いていただきたいと思います。先ほどちょっとウェブのことで委員が質問しましたけど、そういうことも踏まえて、町の計画で委員からいろいろなテーマで発言がありましたけれども、そういうものをどう作っていくのかということで、3カ月、4カ月議論しながら構想を作り、再生計画を作り、今年それを実施している。目標の中に条件を定めてありますが、御宿町は既に条件があると思うんです。これは皆さんかなり勉強してきたことだと思うんですけど、普通の自治体は条件がないんです。ないところがほとんどです。じゃあ条件をどう生かしていくのか、ぜひチャレンジしてくださいというふうに私は国が言っているのではないかと個人的には思っています。チャレンジしたものをどういう効果が出たかということ、かなりあった。それぞれが5つの事業を実施したので、全体をコーディネートしていく進行管理ですね、進めていく計画を実現するためには、どこが足りているのか足りていないのかという総括は、本来あっていいのかなと思います。私の話のあとにあるかもしれませんが。そうした中で、具体的に3月31日までで、ここまで進んだんだよと最後KPIの質問をされましたけれども、それについてはどのように考えていますか。

副町長

いま委員がおっしゃった全体的な総括がないということですが、先ほど各課の課長から話をさせていただいた後に企画財政課長から触れさせていただいたんですけども、改めて私からも全体的なお話をさせていただきます。この3年間は国から、こういう方向性でいろんなことにチャレンジする期間として認められた期間であると思っています。1年目では御宿の中で事業者の方などと相談して、取り組みを進めていくというのが、当初の想定ほどにはできなかったのかなと思っています。そういう面で縦割りの面が見えてしまうかもしれませんが、庁内を含めて連携の基礎ができたという意味では、評価していい1年であったと思っています。ただ、協議会の皆さんとか、議員さんであるとか、商工会とか観光協会の皆さんまで取り組みの輪を広げていく、また庁内でも職員の間で広げていくという面では、やや課題が残ったのではないかなと思っています。官民連携というスタンスを深めていかないと、3年間だけじゃなくて先も含めて御宿の地域づくりに繋げていくことができないんじゃないかなと思っています。まずはそこをきちんと、地域づくりのコンセプトとして、位置付けることが大切ではないかなと思っているのが1点ございます。それから、委員の数字で答えられなかったのはまことに恐縮なんですけど、今月末にもまた交流会があるということで、はっきり答えなかったと思うんですけど、確かに取りかかりが半年くらい遅れてますので、数字的な意味では、なかなかKPIに達していないというのが現実だと思います。今年度の反省も踏まえて、来年度ははじめから、早めに仕掛けをして、皆さんに情報発信をして数字

的な面も含めて、事業がうまく進捗できるように取り組んでいかなければならないし、いきたいと考えております。

まとまらないんですけど、私自身の身の振りも含めて、2年という短い間だったんですけど、取っかかりだけはうまく作れたんじゃないかと思っておりますので、そこをいかにしていくかというのは、今日皆さんにいろいろな意見を、医療とか介護といった話題も含めて、課題を提供していただいたので、それを点ではなく、CCRC事業に含めるか含めないかはありますけれども、町の課題として捉えて、この協議会で、あるいは他の場かも知れませんが、関係の皆さんと話し合っ、て、対策を作っていくという手法で、やっていけばいいのではないかなと感じました。

委員長

そのほかございますか。

とにかく、いろいろなご意見が出ました。計画も過去においていろんな計画がなされたが、期限が来ると、終わる計画もたくさんありました。これが、引き続きということですね、補助事業が終わってからも、できますか、やってくれますかというのでは困ります。ですからぜひ委員が読み上げたように、再生計画の目標、具体的にということで、ここに行政の意気込みが凝縮されて表現されていると思っておりますので、ぜひこのことを片時も忘れずに進めていただければ、CCRC事業の計画が達成されているというふうに思いますので、ぜひここに掲げたのが絵に書いた餅にならないように、がんばっていただきたいなと感じています。

委員

それから、最後に式次第ではその他ということですが、なにかございますか。

推進協議会の会議が今年度2回しかやらなかったじゃないですか。さっき数値の話とか出たんですけど、毎週やる必要はないと思っておりますが、私にしてみれば1回やって、2回で今年最後でこれが出てきて、委員として私は何をやってるんだとなりますので、もう少し回数が増えればいいってもんじゃないと思っておりますが、うまくできないかと。もうちょっと話す場というか、さっきのKPIもそうだと思うんですけど、一番大事なものは数字じゃないですか。これはこれでいいと思っておりますが、この裏には数字があるはずなんですよ。一定の進捗しているのはよくわかるんですけど、それが見えないと委員としては不安です。限られた事業年度の中で、交付金を執行していくというのは必要だと思うので、回数だけじゃないですが、そのあたりも委員の皆さんとやっていきなりたいなと思っております。私もサラリーマンというか、異動がある身ですからいつ動くかわからないですが、2回は少ないですね。

副町長

前年度の最後に福祉系のグループと商工系のワーキンググループを作って、やるまえにいろいろ揉んだり、結果を持ち寄って議論したりという場にしようという想いがあったのですが、ワーキングはなかなか機能してなかったと思っておりますので、来年度は私はいないんですけど、やはり皆さんと意見交換していろいろなものができていくと思っておりますので、ワーキングの活用も含めて、取り組みを進めていく必要があると思っております。

委員長

おっしゃられたとおり年2回はね、なかなか各課の事情があって忙しいので、できなかった部分があるのではないかと思います。やはりそれぞれ課長会議等もあると思うので、ぜひこういうことも意見が出たということで、少なくとも3カ月に1回くらいは、こういう話をする機会を設けたほうが進んでいくと思うし、だめなものは、早く切り捨てて、新しく先へ進むこともあろうかと思っておりますので、今後注意しながらやっていただければなと思っております。

副委員長

もう一つお願いがあるんですけど、形骸化しないようにというのも大切なことだと思います。回数が少なすぎる。あと資料も前もってお送りいただけますか。そうすると委員の

ほうも勉強してこのために望むことができます。いきなり今日資料をみて、皆さんとお話するのは無理です。どうぞ前もって資料をお願いします。

企財課長 協議会の開催回数は、ワーキングを含めまして、頻度のほうを上げていくような方向で考えていきたいと思います。また、資料のほうは大変失礼いたしました。あらかじめ配布するようにいたしますのでよろしくお願いいたします。

委員長 ほかになければ、これもちまして本日の協議会を閉会とさせていただきます。長時間にわたり慎重審議ありがとうございました。